

霧島山

概 況

新燃岳の火山活動は、静穏な状態で経過しました。

御鉢火口の噴気活動は継続していますが、12月に確認された火口内の新しい噴気孔2ヶ所からの噴気は、遠望カメラで火口縁を越えて観測されませんでした。地震・微動活動は低調に推移しました。

噴気活動の状況

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

2003年12月中旬から活発になった御鉢火口内の噴気活動はやや低調で、噴気が気象台の遠望カメラで火口縁を越えて観測されることは一度もありませんでした(図3)。気象台職員が25日に御鉢火口に登山し確認したところ、12月に形成された御鉢火口内の噴気孔2ヶ所から依然として噴気は上がり火口縁付近で消散していました。

このように、御鉢火口内の噴気活動は1月に比べやや低調ながら依然として継続しています。

地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点A点）は37回（1月：45回）で、比較的少ない状態が続きました（図2）。

新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は28回（1月：23回）で、9日に10回、10日に5回とややまとまって発生しました（図4）。これらの地震はいずれも微小な地震でした。新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

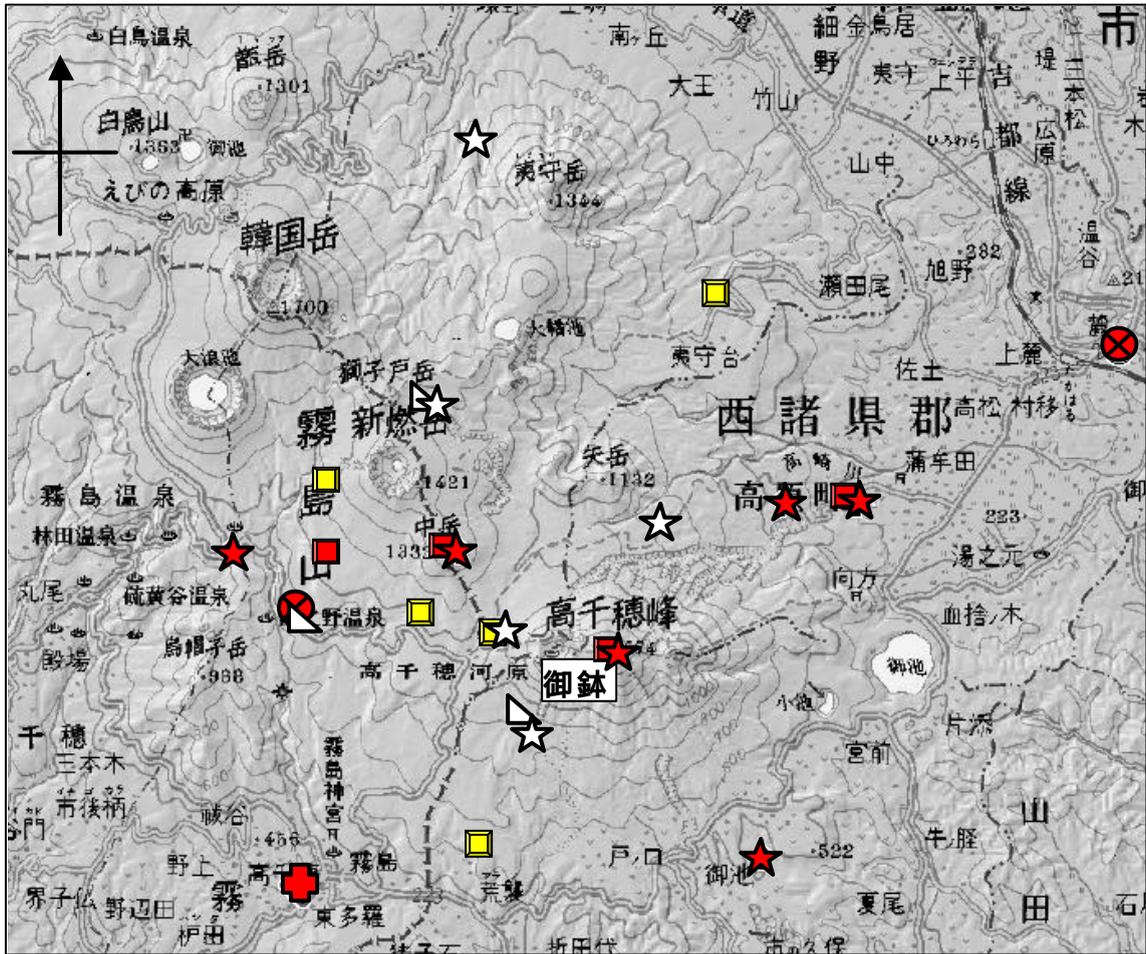
御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震は1回（1月：53回）で、少ない状態で経過しました。また、御鉢付近では1月3日以降、火山性微動は発生していませんでしたが、2月18日に継続時間1分の微小な火山性微動が1回発生しました（図2）。

地殻変動活動の状況

GPS連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化は見られませんでした(図5)。

また、気象研究所の3点の傾斜計には、火山活動に起因する変化は観測されませんでした。



- : 地震計(気象庁) 4箇所
- : 地震計(東京大学) 5箇所
- ★ : GPS(気象庁) 6箇所
- ☆ : GPS(気象研) 4箇所
- ⊗ : 空振計(気象庁) 2箇所
- ⊕ : 遠望カメラ(気象庁) 1箇所
- △ : 傾斜計(気象研) 3箇所

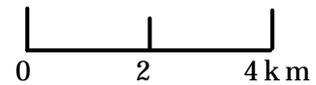


図1 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

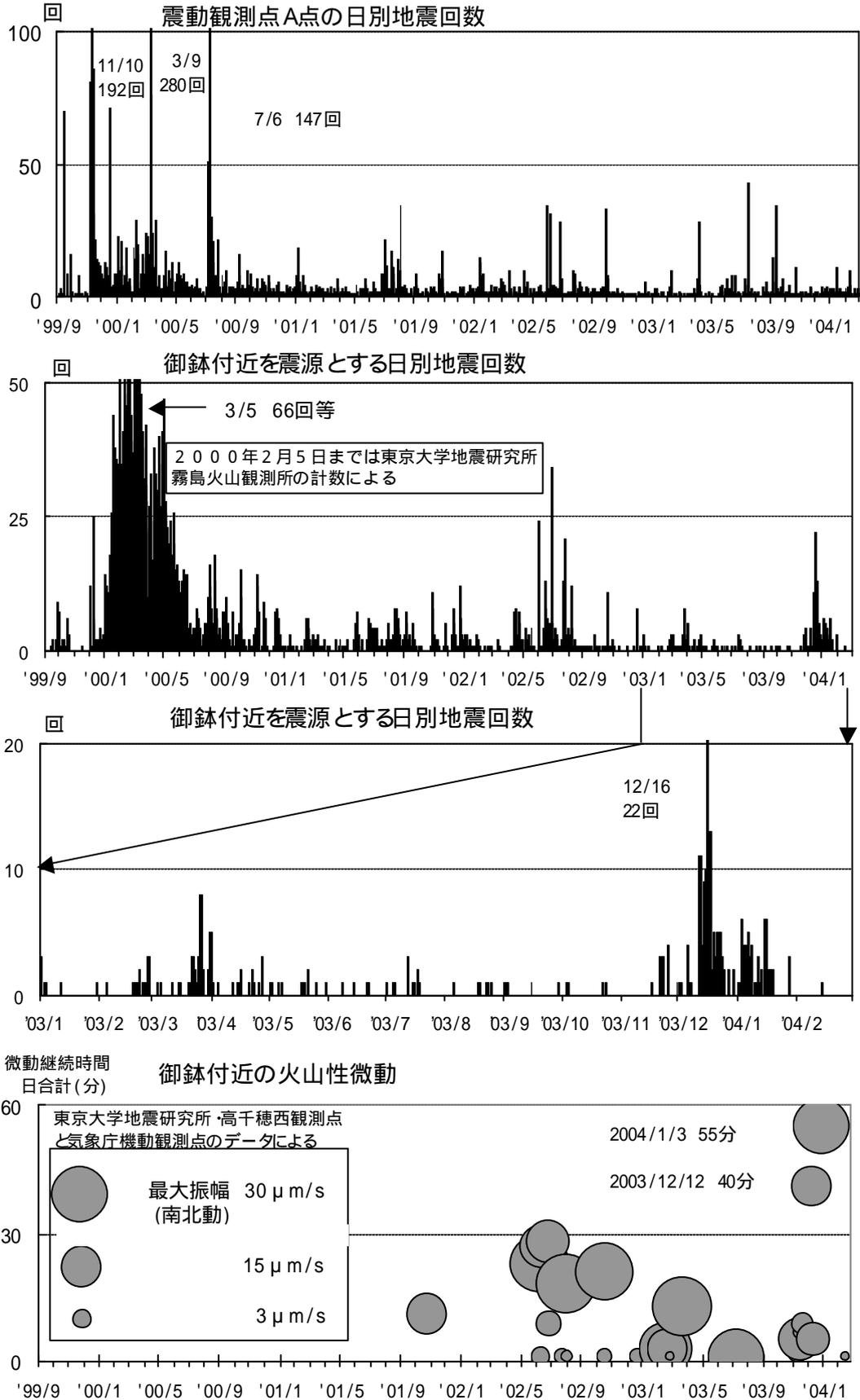


図2 火山活動経過図(1999年9月～2004年2月)

2004 年 2 月は火山性地震が少なく、御鉢で微小な火山性微動が 1 回発生した。

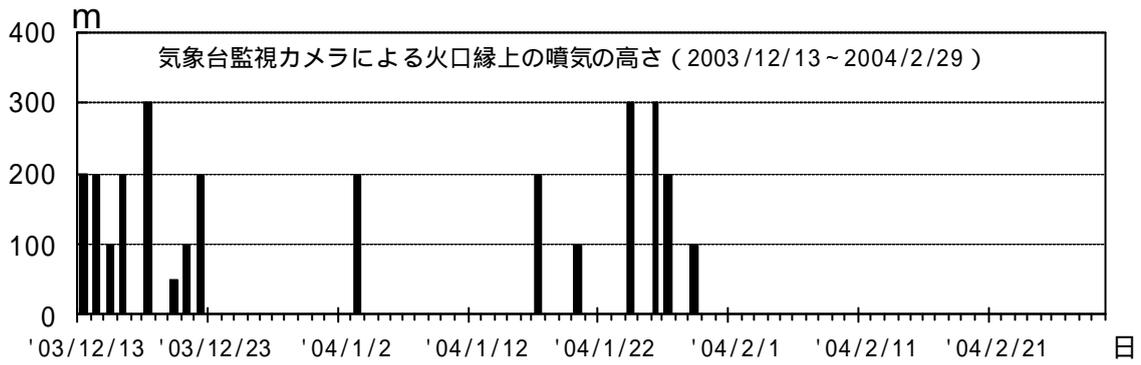


図 3 御鉢火口の噴気の最高高度(2003 年 12 月 13 日～2004 年 2 月 29 日)
2 月は火口縁を越える噴気は観測していない。

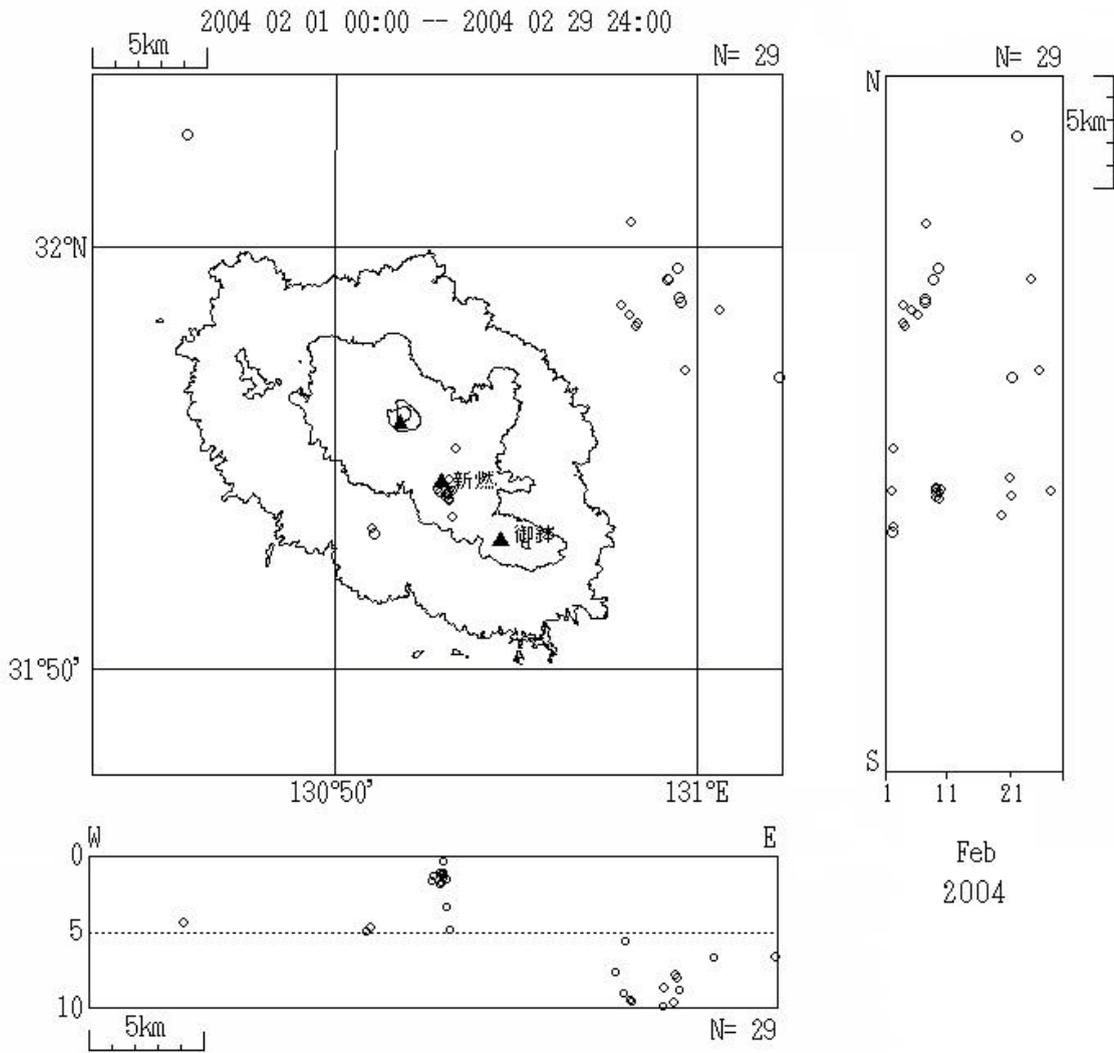


図 4 震央分布図（上）断面図（下）時空間分布図（右）
(2004 年 2 月 1 日～2 月 29 日)

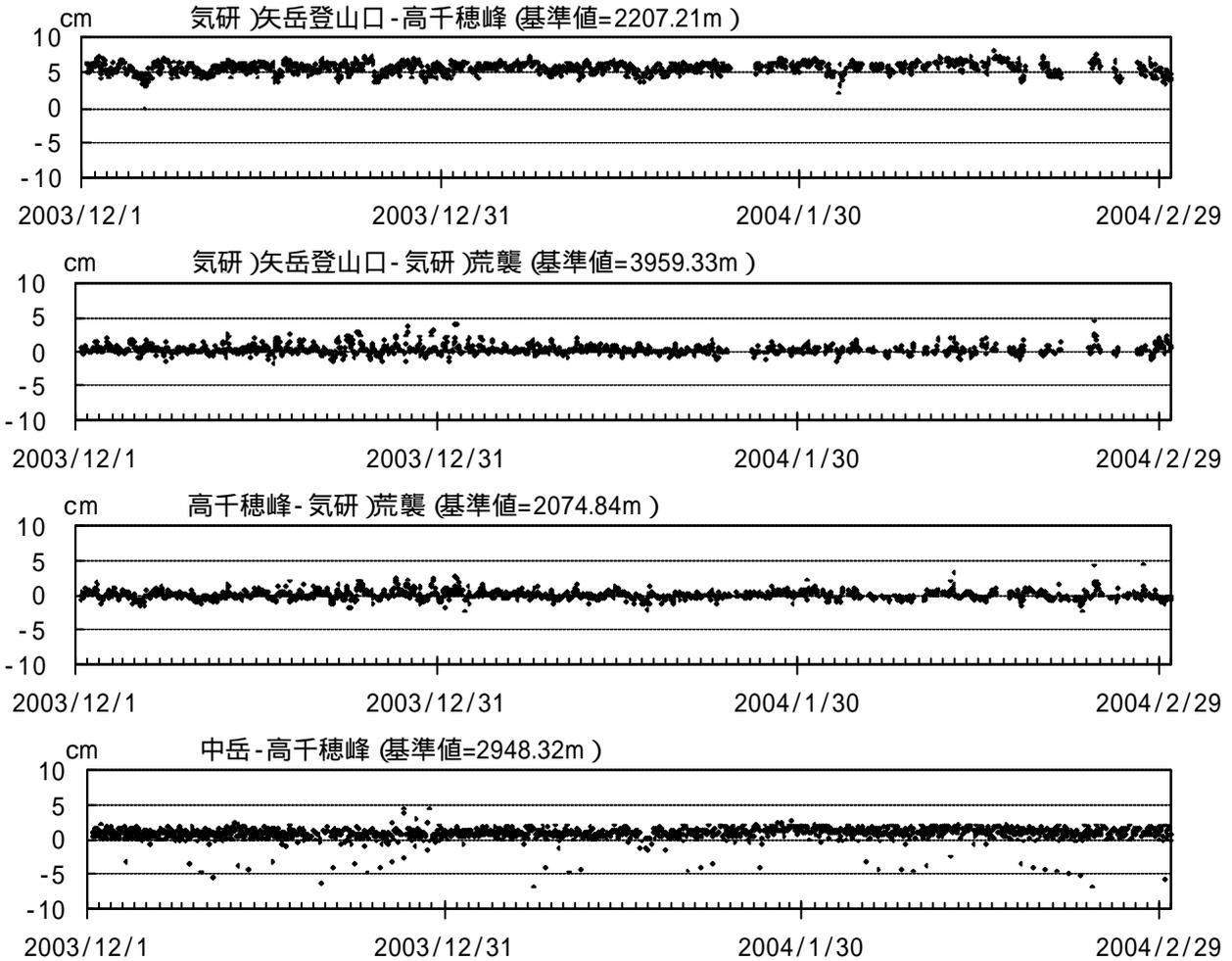


図5 GPSによる基線長変化(2003年12月1日~2月29日)

- ・ 気研) 高千穂河原観測点は1月23日からデータ回収できないため、 ~ の基線長変化図は掲載しません。

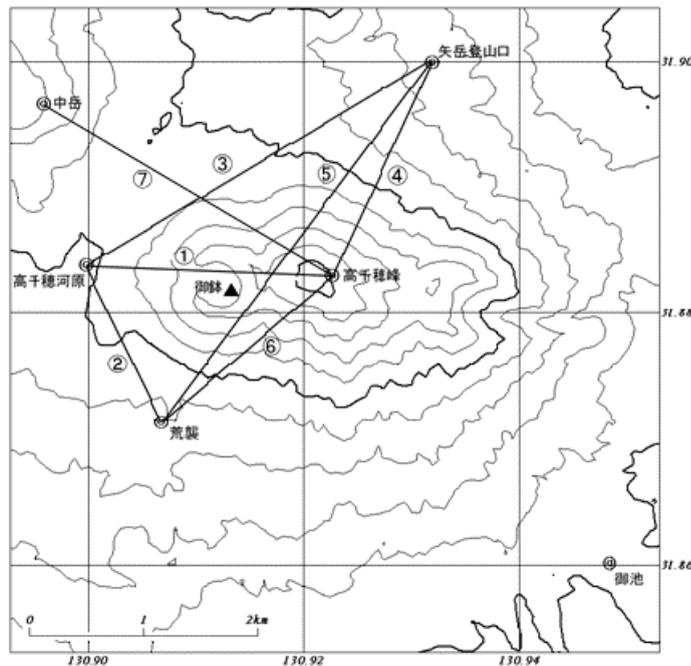


図6 GPS観測点位置図と基線